トマト青枯病の新たな被害軽減対策
転炉スラグ＋耐病性台木が効果的！

農研機構
研究成果の市販化情報
平成 28 年 6 月 29 日
農業共済新聞掲載

- **転炉スラグ**を用いて**土壌 pH を 7.5 程度に矯正**すると、**トマト青枯病**の被害が軽減されます。
- 圃場全面の土壌を pH 矯正する必要はなく、**畝内の深さ 10cm 程度**構いません。また、**数年は被害軽減効果が持続**します。
- **耐病性台木**への接木苗の移植を併用すると、**被害軽減効果がさらに向上**します。

技術の内容

背景

- トマト青枯病などの土壌病害が発生すると、収穫量が減少し、しかも毎年発生するようになる。
- 防除対策は、薬剤による土壌消毒や耐病性品種の利用などであるが、これだけでは対策は不十分。

▼

転炉スラグ施用による被害軽減技術を開発

石灰質肥料である転炉スラグで土壌pHを7.5程度に矯正

- **被害軽減**
- **耐病性品種（台木）との併用で効果向上**

トマト青枯病の被害軽減効果
左畝：未矯正、右畝：畝内を pH 矯正。
自根苗を移植しても同様に効果は高い。

導入のメリット

- **簡単な作業（例えば転炉スラグ2t/10aを畝内のみ10cm深に混和）で複数年効果が持続**
- **他の病害（根こぶ病、ホモプシス根腐病、フザリウム病など）にも効果あり**

▼

10a あたりの経費の試算（転炉スラグ代のみ）

転炉スラグ： 3万円 /t、施用量： 2t/10a の場合。
施用量は、土壌の種類や矯正前の pH によって異なる。

- **圃場全面施用の場合、 6万円（初年目）**
- **畝内のみ施用の場合、 3万円 / 年（初年目）**
- **効果が3年間持続した場合、 1万円 / 年**

技術の詳細は、下記 HP をご覧下さい。
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/062011.html 「転炉スラグ　青枯病」でも検索できます！

▼転炉スラグの入手についての問合せ先

地域によってメーカーや販売ルートが異なるため、
右記に問い合わせ下さい。

▼技術の内容など、詳しく知りたい方もお気軽にご連絡ください。

農研機構 NARO 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター
企画部産学連携室
TEL：019-643-3414 FAX：019-641-7794 Email：www-tohoku@naro.affrc.go.jp